

新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム(第6回会合) 議事要旨

1 日時

平成22年4月15日(木) 16時00分～17時30分

2 場所

三田共用会議所 講堂

3 出席者(敬称略)

(構成員:50音順、敬称略)

土居範久、所眞理雄、藤原洋、村上輝康、森川博之

(総務省)

内藤総務副大臣、桜井総合通信基盤局長、吉田電波部長、渡辺電波政策課長

(事務局)

電波政策課

4 配布資料

- 資料6-1 神奈川県藤沢市
- 資料6-2 (株)デジタルメディアプロ(構成員限り)
- 資料6-3 兵庫地域メディア実験協議会(兵庫県)
- 資料6-4 宮城県栗原市
- 資料6-5 YRP研究開発推進協会

5 議事概要

(1) 開会

(2) 内藤副大臣 開会挨拶

- 検討チームでは、ホワイトスペースの活用など今後の電波の有効利用に向けた検討の一環として、昨年12月から今年1月まで、ホワイトスペースの活用方策等について提案募集を実施し、その結果、50者以上の方から100件以上もの提案をいただいた。提案いただいた内容は、エリアワンセグやデジタルサイネージを活用したものが多く、いずれも、魅力あるまちづくりや地域雇用の創出などの社会的効果、経済的効果が期待できるとしている。

そこで、検討チームでは、提案いただいた方々の中から17者にご出席いただき、提案内容の詳細を直接伺う場として、公開ヒアリングを3回にわたり開催している。この方々は、提案内容がビジネスとしての確立可能性、また、地域活性化など社会的、経済的効果などが期待できるものであるか、という観点から、検討チームの土居座長と相談して決定した。

公開ヒアリングでは、提案者の方々と忌憚のない意見交換を行いたいと考えており、今後の検討に反映させていきたい。

(3) 公開ヒアリング

各提案者からのプレゼンテーション

- 神奈川県藤沢市より、ホワイトスペースを活用したビジネスモデルを確立させるための実権支援エリアを藤沢市に創設し、ひいては新しい公共の実現やシティブランド等の発信につなげたいとのプレゼンテーションがあった。
- (株)デジタルメディアプロより、ホワイトスペースを活用して地下空間で、様々な情報を配信し、快適な地下空間を創造する地下空間放送局構想についてのプレゼンテーションが行われた。
- 兵庫地域メディア実験協議会(兵庫県)より、エリアワンセグを活用して情報コンテンツの地産地消を目指した地域に密着した情報を提供し、限定放送局を創設し、地域活性化につなげたいとのプレゼンテーションが行われた。
- 宮城県栗原市より、災害時においてエリアワンセグにより災害情報や地域情報を配信し、災害時における早期情報手段の確保、被災地の安心・安全の確保に役立てたいとのプレゼンテーションが行われた。
- YRP研究開発推進協会より、エリアワンセグによる地域メディアの活用により、地域サービス、コミュニティ活動が活性化し、雇用機会の創出の実現が期待できるとのプレゼンテーションが行われた。

質疑応答、意見交換

- 上記プレゼンテーションに対して行われた、主な質疑は以下のとおり。なお、会場の場で質問されなかった項目についても、構成員より質問があった場合には、後日書面により回答されることとなった。

- ・ 藤沢市は、多種多様なサービスの提案をしているが、実行するためのノウハウの蓄積はあるのか。いくつかのサービスに集中して取り組み、成功例を積み上げていく方がよいのではないか。
デジタルメディアプロは、地下街、地下鉄移動時、非常時といった利用シーンごとにホワイトスペースの利用の違いを明確にしてほしい。
兵庫県の提案されているエリアワンセグを利用した地域情報の提供は、具体的利用シーンの一つといえる。今後、事業の収益性・継続性を考慮したビジネスモデルを構築し、雇用創出や広告収入につながるような地域活性化の方策を検討してほしい。
- ・ 栗原市は、ワンセグによる災害時のみの運用だけでは、事業が継続しにくいのではないか。地域の活性化につながるよう、平常時の運用はどうするのかを教えて欲しい。
YRPは、実証実験などを通して、技術的検討に貢献しているようであり、今後も活動を期待したい。YRP自身はビジネスを起こす考えはないのか。
- ・ 現在、藤沢市はフリーペーパーや新聞で情報発信をしている。同様の情報発信をホワイトスペースの活用により実施し、そこで得られた広告収入により、市民同士のコミュニケーションツールとして成り立つよう段階的に運用することを想定している。
(藤沢市)
- ・ 地下街では、デジタル放送の普及に合わせて、デジタルサイネージによる広告事業の事業性が高い。また、非常時には、場所によらず関連情報の配信が重要であり、地下空間での情報伝達格差をなくす要望が高い。(デジタルメディアプロ)
- ・ 地域の企業を積極的に活用することでコストダウンを図り、地域で運営できるようにし

たい。店舗情報などの地域情報を配信することで、情報の地産地消を地元産品の地産地消につながり、地域の活性化になると考えている。(兵庫県)

- ・ 提案したシステムは、災害時の緊急情報通信を目的としたため、日常的な利活用、どのようなコンテンツを配信するかについては検討中であるが、例えば白鳥の飛来情報など観光情報に活用できればと考えている。また、今後の10年以内に東北地方において地震の発生も予想されており、栗原市としては災害通信の整備は急務であると考えている。さらに、日常での行政情報のリアルタイムの伝達ツールとして活用する可能性を検討している。(栗原市)
- ・ 藤沢市は、ホワイトスペースの活用がシティブランドの発信、声なき声を集める契機になると提案しているが、具体的な方法について教えて欲しい。
デジタルメディアプロは、災害時におけるワンセグ端末の周波数チューニング方法を教えて欲しい。地下空間において、災害時に役に立つ情報を正確に運用するためのコストについて教えて欲しい。
兵庫県は、コウノトリを観光資源として認識しているということによろしいか。
栗原市は、災害時の受信端末の周波数のチャンネルをどのように被災者に通知するのか、また、運用の経費負担についても教えて欲しい。
YRPは、無線の専門家から見て、電波の有効利用のためのホワイトスペース活用に関する問題点の抽出をお願いしたい。
- ・ 子育てサポート等の市が推進している事業が、エリアワンセグを活用することにより市の外にも周知することが可能になり、市のブランド化につながるのではないかと考えている。また、声なき声というのは情報が届かない事にも起因している面があるので、ホワイトスペースによりエリアワンセグ等でこれまで以上に多様な情報発信が出来るようになればその解消の一端になると考えている。(藤沢市)
- ・ コウノトリが生息できる環境をPRすることにより、そこで野菜などを作っている地元農業の宣伝につながり、また、地域の心のよりどころにもなることで地域再生につながると考えている。(兵庫県)
- ・ 災害時には、複数個所の避難所に市の担当職員が受信端末を持ち込む予定である。ワンセグ端末を持っていない住民には、市で用意した端末の貸し出しを考えている。(栗原市)
費用については、通信事業者と、栗原市が日常的な負担が出来る額に交渉しているところである。
- ・ 栗原市の運用費用は、コンテンツ作成の費用を含めたものか。
- ・ 災害時のコンテンツ作成は、緊急性があるため市で作成している。日常的に市民に配信するコンテンツ作成については、市報と同じように、出来るだけ市で作成したいと考えている。(栗原市)
- ・ 本日の会議を踏まえ、ホワイトスペースの活用に関して、活気のある研究者会議をして参りたい。(YRP)
- ・ YRPは、産業の創出という観点で産業規模のデータを算出しているか。
デジタルメディアプロは、地下鉄の車両にコンテンツを配信する場合、アンテナはどの程度の数を想定しているのか教えて欲しい。また、設置にあたり、地下空間を使用する際の問題点について教えて欲しい。
提案した地方自治体は、継続性や事業計画を検討する際に、新たな産業の創出に

よって地域活性化に重点が置かれているという認識でよいか。

藤沢市は、エリアワンセグの実験をする場合に、市外に出向きPRするのではなく、藤沢市内に人を集めて実験を行うメリットを教えて欲しい。

- ・ ホワイトスペースを活用した市場規模については、現在検討中である。(YRP)
- ・ 受信アンテナについては、車両に取り付ける予定である。送信アンテナについてはLCX(漏洩同軸ケーブル)をトンネルに引く、もしくはギャップファイラーで引き込むことを想定しているが、浸透率の関係もあるので、アンテナの長さや高さ、LCXを設置できない場所、設置間隔距離などの詳細については現場検証を行わなければ分からない。(デジタルメディアプロ)
- ・ 今回提案したサービスは、市民の安心安全を守ることを出発点としているもの。一方で、市の施策の一つとして、ICTを活用した電気自動車や遠隔医療の実証実験など、ICTの利用による市の活性化に取り組んでいるところ。地元の企業にコンテンツ作成をお願いするなど、将来的に雇用が創出されることを期待している。行政が間に入り、各メーカーと地元企業を結び付け、雇用が創出されることを期待している。(栗原市)
- ・ ユーザーエクスペリエンスを検討することで、ホワイトスペースの活用を希望する企業を藤沢市に誘致でき、新産業の創出につながると考えている。

藤沢市は、観光で人が集まる地域という利点があり、企業のニーズに応えやすいと考えている。(藤沢市)

- ・ 提案された放送型のサービスについて、番組表を作成して放送するのか、オンデマンドでユーザーがコンテンツを選択するのか、またその他の方法か、具体的なコンテンツのやり取りについて教えて欲しい。
- ・ 視聴者は、長い時間視聴してくれないので、3分間のコンテンツを10本など、組み合わせて流し、それぞれ2週間程度で入れ替えることを考えている。(兵庫県)
- ・ オンデマンドでユーザーがコンテンツを取りに行くのは、現在の携帯でも可能である。それに加えてエリアワンセグで番組を流すことを考えている。(藤沢市)
- ・ 番組表を持った放送と、デジタルサイネージを利用して繰り返し番組を流す放送の2種類を考えている。(デジタルメディアプロ)
- ・ 放送型のサービスを想定しており、市のwebページの広報と同じ頻度で、新たな情報が入り次第、更新することを考えている。(栗原市)

以上